

【1班 前半活動のまとめ】

島崎先生、木村先生、有田先生のレクチャーを受けて

- 展示をするうえで映像を見たり実際にさわったり匂いをかいだりするなど五感を使っているのでもろんな人がそれぞれの視点で博物館を楽しめると思った。
- 文字だけで説明するのではなく、実物を展示したりするなどの工夫がされていた。
- 自転車を漕いだり、うちわで風を起こすなど自分の体を使ってエネルギーを作るところを体験した。エネルギーを作るといことはとても大変だということを感じた。つまり、大量のエネルギーを作るのに大量のエネルギーが必要なのだとことを知った。

科学技術館

- ジオ・ラボは体験型の展示やワークショップがメインとなっていて、テーマごとに色で区切られていて分かりやすかった。だが、体験型の展示は壊されたり、伝わりづらかったりなど見せ方の厳しさを知り、ただ「わかりやすい」「楽しい」だけではなく工夫の重要性を感じた。
- 中でも印象に残った展示は、温暖化を体感できる部屋。ただ数字で温暖化と言われてもあまり実感がわかないが、実際の気温を肌で感じる事ができるのでとても分かりやすかった。
- キャラクターなど親しみやすいイラストを使うことで興味を引き寄せていた。



温暖化を体感できる部屋

火力発電所

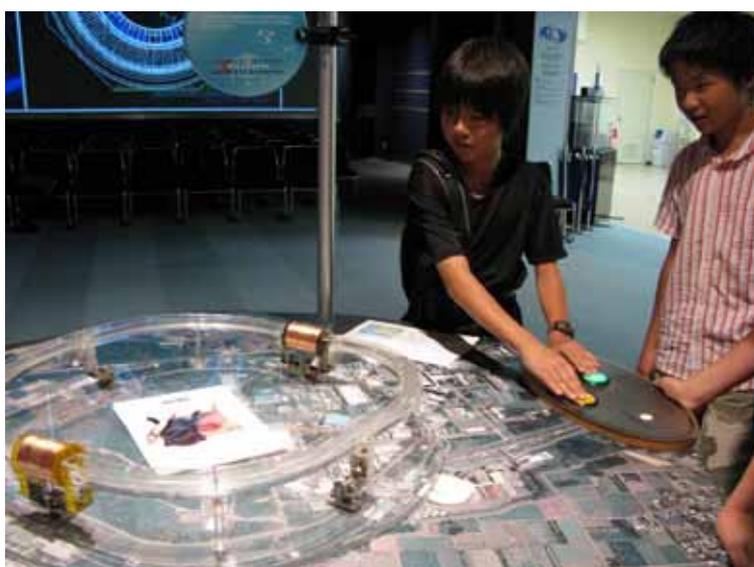
- 思い描いていた火力発電所のイメージとは異なる部分が多かった。大きさの発電所を小さな部屋で少人数で管理していたことや、タービンが建物の大きさの割りに小さかったこと、敷地内に緑がたくさんあったことなど、初めて知ることばかりだった。特に、かなり大規模な発電所だと思っていたのに、日本でもっとも小さいと聞いて驚いた。
- エネルギーを作り出すということにも多大なエネルギーが必要だということを知った。
- 電気自動車は静かだった。だが、エネルギー的に節約できているかは疑問だった。



敷地内を電気自動車で回った

K E K

- 科学技術館や火力発電所と比べ、内容が少し難しかった。施設内を見学したときも、たくさんのケーブルや部屋や機材が密集していて、外観は似ていても目的が異なっていたり構造が複雑だった。なにより装置の広大さに圧倒された。
- 展示は、言葉は難しかったものの体験型になっていて楽しかった。鉛ガラスと普通のガラスの比較や、宇宙線の可視化など普段体験できないことを体験することができた。
- 未来のエネルギーについて学ぶことができた。



加速器の仕組みを電磁石を使いわかりやすく展示

これからの展示について

以下の2点を重点に置く。

- 見やすさ

(色をカラフルに・例えを分かりやすく・音声を使う・デザインを工夫)

エネルギーカラー：黄色(イメージ)

音：ただ見るだけでなく耳でもおもしろさを感じてもらえる
ような効果音あるいはBGMや音声を検討

模型とパネル：図やグラフを模型やイラストなどを使って分かりやすく
伝える。

- 分かりやすさ

(図を使う・体験型<ただ体験するだけではだめ>・身近なもので比較)

例)ウランの原石からとれるウランの量を人間の体でいうと何パーセントかを比較